

八郎潟町教育委員会では、開かれた教育行政の実現に向けて、次のとおり、平成28年度教育委員会評価をまとめ、平成29年9月町議会議定例会へ提出します。

教育委員会評価の実施について

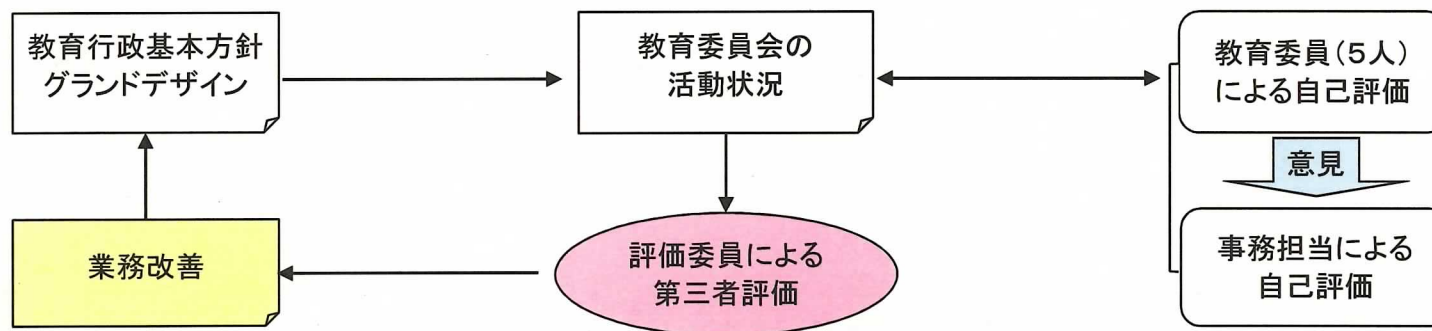
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成20年4月施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

八郎潟町における評価の実施



評価計画

3月	(自己評価の集計、まとめ) 【教育委員及び事務担当の自己評価は2月中に実施】 ※達成度の評価基準 A;よく達成できた B;達成できた C;達成できなかった
4月	第1回委員会(概要説明, 評価方法の説明)
6月	第2回委員会(教育委員会活動及びグランドデザイン重点施策についての評価)
7月	第3回委員会(評価結果の確認)
9月	評価結果を9月議会へ提出
10月	評価結果の公表(ホームページで)

◆教育委員会

事業名	事業内容	教育委員自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
総合教育会議	小中学校併設開設に向けて	B	小中併設への改修準備委員会が設立され、スケジュールに沿って進められているが、課題等への解決に向けて検討を重ねていくことなど行政トップと情報を共有できた。	教育委員会と行政が一体となり推進してほしい。校舎内外、ハード・ソフト面など、多様な角度から課題を解決し準備を進めてほしい。
教育委員会の 年間活動計画	定例会の開催 (事務局との連携及び運営上の工夫等を含む)	A	事前に資料が配付され、スムーズな運営となっている。会議に必要な幾分緊張感のある雰囲気の中で、事務局の面々の発言は的をえたもので、充実した会議を構成している。	緊張感をもった真摯な姿勢から実りある話し合いができています。
	教育行政の運営に関する一般方針を定めること	A	教育委員会評価により、業務改善が一般方針に反映され、本町の教育に適っている。また、ランドデザインにより、具体的なイメージにつなげている。	実践の検証がなされ、次年度の基本方針に生かされている。
	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること	A	予算案は事務局でよく練られている。委員からの要望もあり、可能な限りいかしている。	実情を踏まえて、事務局でよく検討されている。
	教育委員会規則の制定又は改廃をすること	B	事務局が、現実に即して対処しようとしている姿勢がうかがえる。時宜にあった制定、改廃となっている。	社会情勢と法体系をよく踏まえて、整備を進めている。
	各種委員会委員の任命及び委嘱	A	豊かな知識と経験をもった方々が選任されている。教育委員立ち会いの下での委嘱は各種委員の意識付けにつながっている。	適切に進められている。
	教育委員研修	B	委員全員が、共通認識を確認できる研修の機会を数多く積み重ね、時代の要請に応えていきたい。	研修を生かした活動が期待される。
	学校訪問 (計画訪問、指導主事訪問、授業参観、部活動・スポーツ少年団訪問、施設訪問など)	A	本町独自の教育委員の活動は継続していくべきである。行事の時だけでなく、いろいろな機会での学校（幼稚園）訪問やスポ少・部活動訪問等は、現場でも定着しており、違和感がなく、いい傾向になっている。	年間を通して計画的に実施され、現場の励みになっている。

◆学校教育

1 確かな学力を育む
4 実践力を育てる

2 豊かな人間性を培う

3 健康の維持と体力の向上を図る

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
八郎潟町学校評価システムの実践	学校教育の重点事項（知、徳、体に関する共通課題）について評価する	B	評価システムに町の学校教育の重点を盛り込み、子どもの実態に応じた目標を各学校・園で設定している。1年間をPDC ₁ A C ₂ サイクルで実践し、自己評価と外部評価を行い、次年度の学校運営に生かしている。 外部評価は、学校評議員にお願いしている。	PDC Aサイクルでの実践が定着しており、評価を生かした取り組みが実践されている。
幼・保・小・中の連携	幼稚園、保育園、小学校の交流会 小学校と中学校の連携教育を推進する	A	幼保・小の連携に関する会議を2日間、園児・児童の交流活動を6月、7月、11月、2月に4日間実施できた。 小・中学校では、乗り入れ授業や合同避難訓練、あいさつ運動の実施などの小・中連携教育に取り組むとともに、幼保と小、小と中の接続のあり方を研究する。	小中併設校を視野に入れて、子どもの負担にならないような連携に努めてほしい。
学校支援サポーターの配置 （小6名、幼3名）	支援を要する子どもの学習支援及び生活面をサポートする	A	支援を要する園児・児童への対応及び幼児教育充実のため、臨時的任用職員を小学校に6名、幼稚園に3名配置し、教育支援委員会での提言を生かすように努めている。	サポートは重要事項であり、適切に実施されている。
幼稚園預かり保育事業	預かり保育時間を午後6時までとする	A	3～5歳児までの全園児の希望者を対象に、午後6時までの預かり保育を実施している。 昨年条例改正を行い、春季休業期間の預かり保育についても実施した。	保護者の要望に添えており、適切である。
英語活動サポーター事業	小学校新学習指導要領に示された小学5・6年生の英語活動をサポートする	A	指導要領完全実施2年前の平成21年度から、英語活動を教育課程に組み入れ、英語活動サポーターを1名を配置している。 担任教員とのTT授業を実践しており、学習内容の工夫改善を重ねることで年々成果をあげている。	教育現場の実情に適した事業で、英語を親しむことに寄与している。
英語指導助手	英語力向上のため、外国人を採用して英語学習を進める 地域の人材を活用し、子どもたちと密着した学習活動を展開する	A	7年目となった英語指導助手は、熱心に指導方法や教材を研究しており、職務に取り組む姿勢が大変優れている。地域にも溶け込み、児童生徒や保護者とも十二分なコミュニケーションがとられている。 周辺市町村との交流・研修にも積極的で、国際性を育む教育に寄与している。	英語教育に限らず、日本以外の文化にも触れることができる。大変熱心な実践状況であり、是非継続してほしい。
メール配信事業	緊急時情報などを保護者の携帯電話やパソコンに速やかに連絡できるメール配信システムを導入する	A	平成24年度から導入している本事業については、ほぼ全ての世帯が登録している。緊急時の情報伝達に大いに役立っている。	緊急時の情報伝達に活用され、保護者の安心感につながっている。

学校給食費助成事業	町内に住所を有する児童生徒の保護者を対象に、教育の充実及び子育て支援を目的として、給食費を助成する	A	平成24年度から、町内在住で区域外修学の保護者にも助成を行っている。 学校給食費の全額を助成することで、保護者の経済的負担を軽減している。	子育て支援のため、継続して実施してほしい。
スクールバス助成事業	通学バスを利用して小学校へ通学する児童の保護者を対象に、教育の充実及び子育て支援を目的として、通学バス定期券購入費を助成する	A	平成27年度から、スクールバスを利用して小学校へ通学する児童の保護者を対象に助成を行っている。 通学バス定期券購入費の全額を助成することで、保護者の経済的負担を軽減している。	教育の機会均等という点で意義深い取り組みであり、適切な事業と評価する。
小学校創立40周年記念事業	小学校40周年記念事業として、サマーフェスタ及び記念学習発表会・記念式典を実施する	A	小学校40周年記念事業として、20周年時のタイムカプセル開封式・サマーフェスタ・校舎宿泊体験活動及び記念式典、学習発表会を実施したところ多くの地域の方々から参加いただくことができた。	小学校の節目の事業として、職員・PTAの取り組みの姿勢に好感がもたれ、児童や地域の方々にとって記念になる事業だった。
中学校校舎床洗浄ワックス・絨毯清掃事業	中学校の教室及び廊下の床・絨毯の清掃、ワックス塗布を行う	A	中学校の教室及び廊下の床・絨毯の清掃、ワックス塗布を学校業務に支障なく実施できた。	適切である。
教育振興大会	八郎潟町立学校に勤務する職員と教育諸団体が一堂に会し、資質向上を図る	A	秋田市の 菊地利雄 様から「お祭りへでかけよう！～角館・土崎・花輪のやま行事～」と題してご講演をいただいた。 教育関係者65名の参加者にとっては、多くの研修ができた内容だった。	研修内容に参加者が満足している様子が見られた。今後も工夫された企画で実施してほしい。
安全・安心フォーラム	安全・安心な町づくりを目指し、関係機関の実践結果と課題を検証する	A	八P連主催で行う「安全・安心フォーラム」への後援と補助を行う。 第12回「安全・安心フォーラム」では「あなたにも子どもの命を救えます」と題して、湖東消防署八郎潟分署職員から心肺蘇生法などのご講演と実技指導を実施していただいた。	PTAとして意識して事業に関わろうとすることに意味があるので、継続して実施すべき事業である。

◆社会教育

- 1 学習機会の充実 2 家庭教育の支援 3 芸術文化の振興 4 文化財の保護と継承
5 図書館機能の充実

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
放課後子ども教室推進事業	放課後や長期休業中に小学校の教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ活動の場を提供する	B	<p>教員免許を有している指導者を2名配置し、放課後に小学校の空き教室を活用して学習会を年100回実施したところ、50名の児童が参加した。夏季・冬季休業中に行った検定学習会には、合わせて18名の児童が参加した。ヨット教室は、ヨット協会会員を指導者にお願いし開催できたが、今年度は参加者2名と少数だった。</p> <p>本事業は、児童の減少に伴って参加者が減少傾向にあるが、放課後の居場所となることから、今後も創意工夫をし継続していきたい。また、放課後児童クラブと連携した活動にすることを検討していきたい。</p>	放課後に児童が安心して過ごすことのできる場となっており、さらに内容を工夫しながら進めてほしい。
やすらぎ交流会	高齢者が生きがいをもち、仲間づくりと楽しい老後生活を送れるよう、講演会、移動学習、交流会を開催する	B	<p>今年度の会員は33名で、5月から2月まで10回の学習会を開催した。移動学習を3回実施し、あきた芸術村での観劇と温泉への宿泊研修を行った。その他の学習会では、町外の講師を招いて手品や落語を楽しむことができた。年10回の学習会をマンネリ化しないようにしていきたい。</p>	高齢者が常に参加しやすく、楽しめる内容で継続してほしい。
観劇の集い	優れた舞台芸術に触れる機会を提供し、芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養う	B	<p>昨年度からあきた芸術村の観劇を行っている。今年度は17名の参加があったが、6名減だった。次年度は内容や時期を考慮していきたい。</p>	内容や時期を検討して、継続してほしい。
新聞活用セミナー	家庭での学習環境に、読み終えた新聞を効果的に活用し、読解力の向上を目指す	A	<p>親子7組16名の参加で、昨年度より親子1組3名の増となった。</p> <p>新聞を通して親子のコミュニケーションもとれ、楽しく学べることが好評である。</p>	親子で参加できる意義のある事業である。
成人式	大人になったことを自覚する機会を提供し、その前途を祝福する	B	<p>案内を慣例により県外在住の八中卒業生にも送付し、8月15日に開催したところ、対象者58名中50名の参加で、9割近い参加率だった。</p> <p>式典終了後に中学校のALTを講師に招いて講演会を開催したところ新成人も中学校時代にお世話になった先生と久しぶりに顔を合わせ、授業を受けているかのように話を聞いていた。</p>	毎年対象者が変わることから、これまでと同じように新成人の企画で実施してほしい。

第34回 子ども会盆踊り大会	県指定無形民俗文化財「一日市盆踊」への参加を促進し、後継者の育成を図る	B	9団体131名の参加があり、一日市盆踊りの盛り上げに一役かっている。 年々参加者が減少しているので、子ども会へのPRをもっと工夫していきたい。	町の伝統文化継承のために参加者確保に努め、継続してほしい。
秋田県青少年劇場	小・中学生向けの優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供し、豊かな情操の涵養を図る 演劇・音楽公演からいずれかを選択して開催する	B	小学校児童を対象とした「ピアノとヴァイオリンのコンサート」を7月12日に改善センターにおいて開催した。 低学年児童には少し難しかったようにも感じたが、生の演奏に触れるよい機会となった。児童からの感想文には、「美しい音色に心を奪われた」「ヴァイオリンのなめらかなメロディが心に響いた」などと記されていた。	生の優れた芸術を鑑賞できる貴重な事業であり、是非継続してほしい。
歴史文化財探訪	東北三大地主池田家の旧払田分家の敷地に残る「池泉回遊式」日本庭園見学	A	国指定名勝「旧池田氏庭園」の見学会を10月17日に実施したところ、町民の人气が高く、20名の募集に対し37名の応募があった。3班に分かれ、地元ガイドからの説明を受けながら、ゆったりと散策することができ、好評価となった。 今後も多くの町民が、県内の歴史遺産に触れることができるよう情報の収集に努めていきたい。	適切である。
産業・芸術文化祭	芸術文化に触れる機会を提供し、住民の創造性の高揚と文化的風土づくりを進め、文化の振興を図る	B	「はちパル」の完成に伴い、昨年度から舞台の部と展示の部を同日開催して行っている。今年度は、10月22日・23日（土・日）の2日間で開催した。展示部門を「はちパル」で、カラオケ及び舞台発表は「改善センター」で行った。 時間帯や人員配置などが課題として残ったので、見直しを図りたい。	会場を変更して2年なので、事業の進行状況を整理して、課題を解決しながら進めてほしい。
新春書初め会	健全な心身と生涯にわたり書を愛好する豊かな心情を養う	B	新春を迎えるにあたり、気持ちを新たにして書き初めに挑戦する機会を提供している。1月5日に「はちパル」を会場に実施した。参加者は幼児1名、小学生4名、中学生1名、一般10名の計16名だった。 参加者が年々減少しているので、PRの仕方や内容を工夫していきたい。	参加人数の多少にかかわらず、結果を見て楽しむ人もいるので、継続してほしい。
合同厄祓・還暦祝	人生の節目に当たる厄祓・還暦を祝う	B	2月の第1土曜日に開催している合同厄祓・還暦祝を2月4日に改善センターで開催したところ、参加者は33歳31名、42歳18名、還暦73名の計122名だった。 慣例により、町外在住の八中卒業生にも案内を送付しているが、住所の把握には毎年苦慮している。	対象者の把握は大変だろうが、節目の事業であり、同級生との再会の機会にもなっているので継続してほしい。
趣味講座	個人の要望、社会の要請に応じた各種趣味講座を開催する	B	町の生涯学習奨励員等の多様な知識や技術をもっている方々に講師を依頼して、町民のニーズに応えた講座を開催している。 参加者は大満足を得ているところだが、今後さらに視野を広げて参加しやすい講座を考えていきたい。	適切である。

学校支援地域本部事業	小・中学生に対して、学校・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整備する	A	小・中学校の「総合的な学習の時間」「正課クラブ」で、専門知識や技術をもつ地域の方々に指導をお願いしている。運用の仕方は各学校が計画し、指導者への謝金については、教育委員会が予算化している。 新規に始める学習活動の分野への指導者確保について、積極的に取り組んでいかなければならない。	地域の方々の知識や技術は町の財産であり、それらの人材を活用した児童生徒との交流は意義のある事業となっている。
図書貸出事業	新刊図書の購入、県立図書館との相互貸借事業と図書整理を行い、町民の読書意欲を促す	A	オープン2年目となり、新刊図書購入も順調に進んでいる。これに伴い、利用者数、貸出冊数も順調に進んでいる。 毎月の企画展示に加え、定期的に開催しているミニ展示やおはなし会など、図書館独自の企画は利用促進に寄与できた。さらに夜の図書館やセミナーなどの新企画にも積極的に取り組んでいる。	利用しやすく、適切に進められている。
後継者育成事業	県指定無形民俗文化財の願人踊、一日市盆踊、地域の伝統芸能「秋田音頭」の後継者育成を支援する	A	願人踊・一日市盆踊・秋田音頭の保存団体である一日市郷土芸術研究会へ運営費として補助金を交付している。保存団体は、町の児童生徒へ民俗芸能を指導し伝承している。 伝統芸能を継承していくことは、かなりの努力と困難さを要すると思われるので、今後も保存団体が活動しやすい環境を整えていく。	伝統芸能継承のため、指導者の努力が生かされる環境を整えながら推進してほしい。
文化財保存事業	町指定文化財の保存とNPO法人「浦城の歴史を伝える会」への業務委託	B	町指定文化財等の維持・管理をしている。浦城の歴史を伝える会は、浦城址に設置している仮説トイレを管理している。 小池板碑群の風化・毀損防止のため、今年度は小池板碑群保護施設測量設計委託料を予算に計上した。今後建築及び敷地の整備工事実施に向け、計画的に進めていきたい。 県指定無形民族文化財「願人踊」の国指定に向けて、現地調査に来ていただくように働きかけているが、今年度は調整がつかなかったため、今後も積極的に働きかけていきたい。	必要とされる予算を確保して、町のPRに努めるとともに、町の文化財を大切に保存してほしい。

◆社会体育

- 1 町民総参加の各種大会と教室 2 スポーツ団体の育成と指導者の養成
3 学校体育施設やオリンピック記念会館などの体育施設の開放 4 総合型地域スポーツクラブの充実と普及

事業名	事業内容	事務担当自己評価（達成度は A B C の3段階）		第三者評価
		達成度	説明・考察・課題等	
町民体育館夜間開放 （毎週土曜日）	毎週土曜日に夜間開放し、町民に運動に親しむ場所を提供する	B	身体を動かすきっかけ作りとなるように、体育施設を開放し、日常生活の中にスポーツ及びレクリエーションスポーツを普及させることを目的に夜間開放を行い、運動する場を提供している。	継続してほしい。
スポーツ少年団結団式	スポーツ少年団員と指導者が集い決意を新たに励み合う機会とする	B	4月に新団員を含んだ団員総勢126名の結団式を行った。1年間仲間とともに励まし合い協力することを誓い決意を新たにスタートしている。 少子化に伴い、団員の減少が課題となっている。	町を代表する組織として、心技体の向上を図ってほしい。
チャレンジデー	全国一斉に、毎年5月の最終水曜日実施される住民参加型のイベントで、人口規模の同じ自治体同士が、15分以上継続して運動した住民の参加率を競う内容となっている	A	チャレンジデーにおいては、町内会長等による地域訪問のPR活動が功を奏し、目標を大きく上回る73.4%の参加率で初勝利をおさめることができた。 町広報誌を活用したPRや町内会長等の地域訪問などで周知を図ったことが、認知度を上げる結果として表れた。	スポーツの町として、参加人数の増加に努めてほしい。
町民体育祭	町民が一堂に集い各種スポーツ競技・レクリエーションへの参加を通し、町民相互の連帯を深め、健康で明るい町づくりをねらいとして隔年で開催する	A	隔年開催の町民体育祭は、町誕生60周年ということもあり、多くの町民が参加してくださった。 レクリエーション的な種目を増やし、種目の名前をユニークなものにするなど楽しい体育祭となるようにこころがけた。ただ、町内対抗女子リレーなどに棄権があったので、次回の検討課題として取り組みたい。	若い人の参加が少ないと感じているが、どんな取り組みをしていくことが今後必要なのかを前向きに進めてほしい。
B&Gの運用 （6月15日～ 9月15日）	B&G海洋センタープールを開館し、全町民に開放して水に親しむ機会を提供する	B	昨年度の利用人数5,289名に対し、今年度は5,387名と若干増加した。 今年度、海洋センターのさび止めやプールサイドにマットを敷くなど安全面に考慮して運用した。 今後、学童保育などを利用している小学生をうまく巻き込みながら、利用増に努めていきたい。	利用しやすい状況だが、さらに安全で清潔な環境で利用できるように努めてほしい。
水泳教室	小学生を対象に、指導者による教室を開催する	A	水泳教室を4日間（8回）実施した結果、209名の小学生が参加できた。指導者の方々の丁寧な指導により、泳げなかった児童も泳げるようになるなど大きな成果として表れている。 スポ少の練習で参加できなかった児童もいたので、スポ少指導者と連携を密にして、参加しやすい環境を整えていきたい。	適切であり、継続してほしい。

ヨット, カヌー教室	小学生を対象に, 指導者による教室を開催する	B	ヨット教室を2日間実施したところ, 2名の参加だったが, 一般の方々も八郎湖に足を運んでくださった。 参加した児童は, 実際に湖面に出てヨットを操縦するなど有意義な時間を過ごすことができた。また, 一般の方々もヨット・カヌーに乗船するなど楽しむことができた。	適切であり, 継続してほしい。
全町スポーツ大会	グラウンドゴルフ大会	A	昨年度, 16町内(27チーム)の参加に対し, 今年度は14町内(22チーム)と団体参加町内が減少した。要因として, 団体の部で参加するよりは個人の部で参加した方が迷惑がかからないからという理由があるようだ。交流を深めるためにも団体での参加を呼びかけていきたい。 大会を運営するにあたり, グラウンドゴルフ協会やスポーツ推進委員の協力の下, スムーズな大会運営ができた。	適切であり, 継続してほしい。
	ラージボール卓球大会	B	昨年度10町内(13チーム)の参加に対し, 今年度は8町内(14チーム)とチーム数が増えたものの, 参加町内は減少している。昨年度, 要項などの見直しを行っており, 継続して事業を進めていきたい。 大会を運営するにあたり, 卓球協会やスポーツ推進委員の協力の下, スムーズな大会運営ができた。	適切であり, 継続してほしい。
	家庭バレーボール大会	B	昨年度12町内の参加があったが, 今年度は10町内の参加に止まった。昨年度, 要項などの見直しをしており, 今後も事業は継続していきたい。 大会を運営するにあたっては, バレーボール協会やスポーツ推進委員の協力の下, スムーズな大会運営ができた。今後さらに町内への参加を促していきたい。	適切であり, 継続してほしい。
	ビーチバレーボール大会	B	昨年度は一般の部8町内, 婦人の部6町内の参加に対し, 今年度は一般の部9町内, 婦人の部6町内の参加で, 一般の部においては参加町内が増加した。昨年度, 要項の見直しをしており, 町内会への参加啓蒙を働きかけながら, 今後も事業は継続していきたい。 大会運営にあたり, 本大会もバレーボール協会とスポーツ推進委員から多大なるご協力をいただいた。	適切であり, 継続してほしい。
	ディスコン大会	B	8町内15チームの参加があり, 昨年度より参加者が増えていることはよい傾向にある。今年度も小学生の参加があり, 大人と子どもの交流も大いに深まった。	適切であり, 継続してほしい。

全県ゲートボール大会	弁天球場を会場に、県内60チームの参加を募り、大会を開催する	B	昨年度と同じく今年度も15チームの参加となっている。今年度、開催時期をかえて実施したが、参加数の増加にはつながらなかった。 今後も、開催時期について県協会や町のゲートボール協会との連絡を密にして、多くの地域から参加が得られるように努めていきたい。	他市町村との連携が必要とされるので、事前の調整を進めながら実施してほしい。
ふるさとあきたラン (全県市町村対抗駅伝大会)	県が全市町村に呼びかけて行われる大会である 第3回目は大館市で開催された	A	全県25市町村対抗駅伝では、入賞を目標において取り組んでいる。総合で24位、町の部では6位という結果で終わったが、出場した小学生から一般までの選手は、一生懸命力を出し切ってくれた。来年度は、上位入賞を目指して取り組みたい。	出場選手の健闘ぶりを称えたい。
スポーツフェスティバル	全町民が各種スポーツやレクリエーションスポーツに触れる機会を提供する	A	体育協会主催のフィステバルは、全町民を対象としてなわとび大会やレクリエーション等を実施した。幼児から一般まで多くの町民が参加でき、成功裡に終わることができた。 なわとび大会では新記録がでるなど、子どもたちにとって大きな励みとなっている。今年度は新種目としてエアロビクス体験もあり、有意義な企画と好評だった。今後もさらに多くの町民に参加していただけるような企画運営に努めたい。	新種目導入の企画を評価するとともに、町民の体力向上に寄与している事業なので継続してほしい。
表彰式 スポーツ講演会	一年間のスポーツ大会の成績に対し、功労賞、特別賞、栄光賞、奨励賞を与え表彰する	B	体育協会主催の表彰式・スポーツ講演会を2月11日(土)に実施、28年度の頑張った方々を表彰し、次年度からの励みになるように企画している。 講師にフィットネス・ダンス・コンディショニングインストラクターの石井亜紀氏をお迎えし、ご講演をいただいた。	受賞者にとって励みとなるよう、継続してほしい。
かけ足運動表彰式	町民の体力向上を図る	A	今年度は上級300日以上6名、中級240日以上が8名、初級180日以上が6名と例年に比べ被表彰者が大幅に増えたことは大変よかった。	被表彰者が増加したことはよい方向であり、継続してほしい。
総合型地域スポーツクラブの推進	28年度事業計画に基づいて活動する	B	この事業は、現在体育協会と共催で進めている。 主な事業；スポーツフェスティバル、ミニテニス交流会	体育協会と共催で種目の拡大に努めてほしい。
町民体育館耐震工事	新耐震設計法が施行された以前の建設物であるため耐震診断を実施したところ、プレス構造の靱性が不足しており、耐震補強工事を実施する	B	H26 耐震診断委託 H27 耐震補強工事実施設計委託 H28 耐震補強工事 耐震補強工事監理業務委託 H28 9月末 耐震補強工事完成	実施について評価する。